

全集未収録の作品〔手塚治虫オリジナル版復刻シリーズ〕全三巻

第一回配本 『冒険狂時代・ピピちゃん』〔国書刊行会〕

第一回講義資料『冒険狂時代』について

雑誌「冒険王」に新連載漫画の『冒険狂時代』は、捲り余白文章をまとめてみるに、

☆はやくも、むねがわくわくする「冒険狂時代」、新年号は、宝の地図をめぐって、ますます大かつやく！
ふくめんの怪人は何ものでしょう。

★ふくめんの怪人は何者か？三月号はさらにおもしろい！！

二丁拳銃の名手ワイルド・ビル・ヒコックにたすけられたタコノスケは？ 宝島の地図の行方は？

☆凧之助の一発！ はたして空カンにあたるか？ またれる六月号！！

☆地図をたよりにアフリカにわたった凧之助の来月号の かつやくはどうなるか！？

☆モロッコ外人部隊にはいった、凧之助 スチーブのかつやくは、さて……。

☆ふみにじられた地図はだれの手に、ますます、凧之助のかつやくがはじまります。

☆宝島の地図は半分ずつに分かれてしまった、サバクの中でこれを追う凧之助……
いりみだれる総登場人物、はたしてこのつづきはいかに？ 次号がおたのしみ！

☆海賊のほりよになったタコの助のうんめいやいかに？

☆ だんじて悪事と曲がつたことの大嫌いな凧之助、第一の難関は無事でしたが、さて次号はいかん？

★おしよせた海賊船！ 砲弾の前たたずむ嵐タコの助はどうなるのでしょうか？

★宝の地図はハム・エッグの手から、また魔法博士へわたりそうだ、タコの助はどうする？ 次号のアラ

ビア篇をまたれよ！

★つうかい日本少年タコの助の、ひやひや、はらはら、つうかい大長編漫画！

★魔法博士は、はたして敵か味方か、ハレム宮殿のふしぎななど、タコの助のかつやくはいかん！

★タコのすけがんばれ！ 六月号はいよいよつうかい、おもしろい！

☆城内におどりこんだ悪人たち！ タコの助はどうなるでしょうか？ 待ちどおしい七月号！

★奇怪な大グモにおそわれたタコの助はどうなるでしょうか？ まで、八月号！

☆さあ、全国少年少女待望の手塚治虫先生のゆかいな漫画がはじまりました！！

★大評判のうちに「冒険狂時代」は、おわりでしたが、手塚先生は、近いうちに、またまたすばらしいものをお書きくださいます。

と編集スタッフが書き添えているのである。

この当代の少年少女を対象にした雑誌「冒険王」の読者層の大半は、十代の少年・少女なのです。この作品中に用いられていることばの表現は国語の教科書已上に重要な言語教育に関わりを持つものでしょう。こ

の時の受け入れ状況のひとつとして教科書ではない漫画という文字と絵の言語媒体が担う貴重な言語生活資料として、今から分析し、解析してみるうえでその言語内容は十分なくらいの注解資料といえましょう。

この作品の登場人物の紹介は、第一回の九頁まで俟たねばならないのです。この登場人物の紹介を見てみると、「これからみんな力をあわせるのじゃ。じこ紹介をしよう！」と云い、「ではまずわしから……わしは英国の牧師で国々をまわっているピカールというものじゃよ」と英国牧師ピカール、次に、「ぼくはハンガリヤの王族フェルジナンドでこれはいもうとのマリア。国で女王になることになったので、ハンガリヤへかえるとちゆうなんだ」とハンガリヤ王族フェルジナンドとマリア（このマリアは一言も発していない）。第三番目に、「せつしやは嵐風之助です。大庭筑前守から西洋の文明をしらべにまいったのでござる」と日本少年嵐風之助が自己紹介するが、ここで彼は国名を告げていないことに気づく。四番目に、「わがはいはパリーのちよつとしたかけごと師で、ピーター・ローレという人である」とフランス国賭け事師ピーター・ローレ（渾名が「一銭ハゲ」と云う）。最後に「さいごにこのワンこうはみもとふめいである」（総名「ポチ」。ペス！。シロ！。犬！）と云う）と結びます。この五人と一匹がこの物語の流れを作っています。救命の小舟には、他にもアラビアの魔法博士と海賊船員も居ますが二人はここでは紹介されていません。

英国牧師ピカールが携えていた「宝島の地図」が危篤間際と為った彼の手で全員に示されていきます。ピカールは、これを「ナポレオンの宝島じゃよ」と言い残しました。この地図は半分ちぎれた部分地図です。

。 23 眼鏡蛇の頭に金十字…／獅子は夕日に三度吠え、龍骨…／に光るべし。 49。 17 憂国の士
よわれはとおく汝を期待す。…年 月 日 ナポレオン ボナパルト 「13頁」

と解説されます。この残り半分の地図は、第五回のアメリカ国アリゾナ州ハムの酒場事務所に登場してきます。

將軍の鼻より…／牝…／夜空…。この密書プロバン大佐に受渡すべし。マルセル・ド… 「27頁」

とあって、はじめて読者は、この宝島の地図の全貌を知ることになります。では、左側半分は誰が持参しているのでしょうか？。実はハンガリア王女の位に就くマリアが持っているのです。

嵐風之助のへんてこな日本語会話表現

1, 「いいよ……。せつしやはきをかえた」 「第三回 22頁」
2, 「せつしやはこの刀にかけてちかうッ！。もう二度と宝島なんかにかまわない。ぜつたい！だんじて！
オールかまわないぞ！」 「第九回 48頁」

独白会話文の複合動詞

1, 「よろめきこむ」 「わしがまだわかいころのことじゃ。ある日海岸にあるわしの教会へ血まみれになった二人の男が……よろめきこんできたのじゃ。一目みてよくない男たちだとわかった」

小学館『日本国語大辞典』第二版に、

よろめき・こ・む 【蹠踉込】〔自マ五(四)〕よろよろとした足どりで部屋などにごろがりこむ。

*夜ふけと梅の花〔一九二五〕〈井伏鱒二〕可成り酩酊者と変じて其の店を出ると、私は又もやそれと同種類の他の店へ入った。よろめき込んだのである。*三とせの春は過ぎやすし〔一九七三〕〈杉浦明平〉三「よたよたと室によろめき込んだ」

【発音】〈標ア〉〔O〕〔H〕

2、「へばりつく」「わしはとっさに十字架にへばりついてごまかしたが、キッド船長はころされてしまったのじゃ」

小学館『日本国語大辞典』第二版に、

へばり・つ・く【一付】〔自カ五(四)〕①べったりと物がくつつく。こびりつく。ねばりつく。*俳諧・続猿蓑〔一六九八〕秋「松茸や知らぬ木葉のへばりつく」〈芭蕉〉*筍録〔一七〇六〕「軍の吟味になりて毎度へばり付たる様に仁義の軍王者の軍など云は、をぼこなること也」*虞美人草〔一九〇七〕〈夏目漱石〉四「蛇の目の黒い縁に落花が二片貼付いて居る」*われら戦友たち〔一九七三〕〈柴田翔〉三・五「どろりと粘りつく流動体は、女の子たちの美しい顔にべったりとへばりつき」②ずつとある物のそばにいる。いっもある人に寄り添う。くつつく。*歌舞伎・黒手組曲輪達引〔一八五八〕二幕「揚巻には、助六といふせんびり虫がへばり附いて居るゆゑだ」*滑稽本・七偏人〔一八五七〜六三〕四・下「酒の側にばかりへばり付て居ねへで」*棒〔一九五五〕〈安部公房〉「手すりにへばりついているのは、子供より大人が多い」【方言】①粘りつく。ひつつく。《へんばりつく・へんまりつく》大阪府泉北郡646《へっばりつく》大阪府中河内郡

643奈良県南大和683《ひばりつく》岡山県児島郡763《へばつく》兵庫県多紀郡667《ひばつく》香川県827②張りつく。《へばりつく》三重県名賀郡585《へばつく》三重県名賀郡・志摩郡585③根気強く、がんばる。《へばりつく》栃木県198【発音】〈なまり〉ヒバイツク・ヒバツク・ヒバリツク・ヘバイツク・ヘバエツク・ヘバツク・ヘバツツク〔讃岐〕〈標ア〉〔バ〕〔ツ〕〈京ア〉〔O〕【辞書】へボン【表記】粘著へボン

いことばの混用表現

あつたこのすけ
嵐風之助が用いる役割日本語である「侍ことば」やめたまえ。殺生はやめろ!「せつしや」「かたじけない」「おのおのがた、これをみたまえ」「それなら、もう勝手にさっしやい」「あつ、きでんは……」

と通常日本語が混在した言い回しが登場します。これは外国語との交流にともなう場面に見えています。※嵐之助が「ここはどこでゴザル。どこへいくのでゴザル」「18頁」と云い、「まあ、ゴザルっておもしろいわ。ここはアメリカのアリゾナさばくでゴザル」「18頁」と彼を助けたアメリカ少女の会話です。この少女が「パパでゴザルわいなア」「19頁」と表現していることで、「ゴザル」ことば表現の第一次言い回しから第二次使用定着度を見ることができます。この二次表現は自身のことばとの融合表現でもあります。

方言のことば表現

手塚自身、関西出身のこともあって、関西語の会話表現が登場しています。

「ありませ、ありませ、あり……。ありヤッ、船だ。あぶないッ」航海士の会話〔第十三回69頁〕

禁忌回避のことは表現

「くわばら、くわばら。やあ、あんたはだれじや。それはわしの犬じや……」魔法博士の会話〔第十三回70頁〕

地名のことは表現

「ナポレオンの宝たからはほんとにあった。しかしナポレオンがエルバ島エルバ島を脱だつしゅつ出するときにもちだしてしまっていたのだよ」〔第二十一回116頁〕

※「エルバ島」えるばとう〔Egna〕イタリア中部、トスカナ州の沖合い約12km、ティレニア海上に浮かぶ島。トスカノ諸島の主島。面積は、一二三・五平方キロメートルで、シチリア島、サルデーニャ島に次いで同国第3位。中心都市のポルトフェツライオ（人口一万〇二三二、二〇〇一年国勢調査速報値）は、本土のピオンビーノとフェリーで結ばれている。山がちの地形で、最高峰は標高一〇一九メートルのカパンネ山。島の東部にはイタリア最大の鉄鉱石の鉱層が存在し、一部はポルトフェツライオで加工され、残りはピオンビーノやバニョーリ（ナポリ）の大製鉄所に送られてきた。しかし、長らく島の経済を支え続けた鉱山と製鉄業は、第二次世界大戦後とみに停滞し、かわりに観光業が著しく発展している。そのほか、アルコール度の強いぶどう酒の生産や漁業も重要である。「歴史」古代から鉄鉱石の産地として知られ、ラテン語でイルウア〔Ilva〕とよばれた。西ローマ帝国の滅亡後、ランゴバルド人、アラビア人、ピサ、メデイチ家、スペイン、ナポリのブルボン家などの支配を経て、一八〇二年フランス領となる。一八一四年五月この地に流されたナポレオンに統治がゆだねられた。彼はこの地において約六〇〇人の手兵を準備したのち、一八一五年二月フランス本国に向けて出発し、百日天下を実現した。その後、ウィーン会議の決定に基づいてトスカナ大公国に属したが、一八六一年にはイタリア王国領となった。〔堺 憲一〕〔日本大百科全書（ニッポニカ）参照〕

音訓両用語

一つの漢字表記の漢字表記語をその場面場面によって音読みしたり、訓読みしたりする慣習は、私たち日本人の言語活動なかで意識的なのか無意識的なのかを含め、その言語状況を注解分析して見る必要がある。す。

○拳銃けんじゆうの名人めいじんワイルドビルに拳銃けんじゆうをならっているあいだに、牧場ぼくじょうの牛うしはぬすまれた。地の文〔第八回41頁〕

●「スチーブ、へんだ。牛うしがいねえ。三十頭しじゅうもたらねえッ。」「ここはあの日本子僧にっぽんこぞうの牧場ぼくじょうだぜ」ミス牧場の人の会話〔第七回39頁〕

●「タコの助君すけくん、あまりなまけてはこまる。牧場ぼくじょうの牛うしがにげたようだ」スミス氏の会話〔第七回39頁〕

☆慣用語ことわざの表現☆

1、「日本にっぽんのことわざに犬も歩けばぼうにあたる」ということがるからね」嵐あらし之助のすけの会話〔第一回10頁〕

2, 「こぞう、めくらへびにおじずつてことしつてるか」 無法者ワイルド・ヒコツクの会話〔第三回20頁〕

3, 「郷にいれば郷にしたがえということわざがある。この土地の習慣にならいたまえ」 ふしぎな怪人の会話〔第三回21頁〕

4, 「にんげん―いたるところにイせんぎ―んありーい……ぜんはいそげだッ」 「でよう！」 嵐風之助の会話〔第八話44頁〕

5, 「東山三十六峯草木もねむるうしみつどき……かすかにきこえるけんげきのひびき……」 嵐風之助の会話〔第八話44頁〕

6, 「心身メッキヤクすれば火もまたすずし……」 嵐風之助の会話〔第八話46頁〕

7, 「べん―せい―い、しゆくしゆく―ウ、よる川を―オ、わたアる―ウ、」 「あかつきに―い、みるウ、千べいの―オ……、大河をよウ―すウ、ちくしよう」 嵐風之助の語り〔第十回61頁〕※「川中島」

8, 「なんだかわけがわからねえが、このルイジ・バンパさまの手にはいいいたのはもつけのさいわいだ」 海賊ルイジ・バンパの会話〔第十一回66頁〕

9, 「月よ……なにとぞ、七難八苦をわれにあたえたまえ」 嵐風之助の独白〔第十八回99頁〕

10, 「肉をきらせて骨をきれ」 嵐風之助の独白〔第二十回110頁〕

☆生活慣習に基づく行動☆

1, 「一銭ハゲ君、卒中にはあたまに古わらじをのせるとよくきくというがしらないかね」 「つまり、血が頭

をあしとまちがえてどんどんひいていくんだよ……」 嵐風之助の会話〔第一回12頁〕

2, 「この二人はふたごだったんだな」 「オランダの書物で、ふたこの一人がしぬと一人も精神てきなシヨックでしぬことがあるというのをよんだことがある」 嵐風之助の会話〔第十一回65頁〕

☆しやれことばの語表現☆

短い会話表現のなかで、咄嗟にしやれたことばの表現が交わされています。

1, 「**嵐之助!**」 「**だいじだ。**」 **犬がいぬ**」 スチーブの会話〔第九回52頁〕

続く「**犬が犬なのはあたりまえじゃなにか**」という嵐風之助の応対がこれを見事に看取させています。

2, 「**みみ、みんな、みてくれ。** おれのは**なが……**」 「**それあ、はなはだはなやかなこと**で」 魔法博士の語〔第十七回90頁〕

★罵倒語表現★

1, 「バカッ、バカヤロツ、**バカでまぬけの大バカ三太郎!**。とんまッ、のろまッ、でく頭ばかりならべやがって……」 ハムの会話〔第七回37頁12齣〕

2, 「やい、**チンチクリン**の日本人、やーい」 「**なんだきいろいかおをしやがって**」 「**日本ザル**」 「**おい日本ザル、くやしけりやおりてこいっ!**」 「**ジャン、ジャン、ジャツプ**がかきねの上でかんがえた♪」〔第十回61頁〕

漢語と和語

漢語表現にもかかわらず、ひらがな書きやカタカナ書きに表示することばが、この作品には多数登場してきています。これを解析するには、この物語でのセリフ部分をすべて入力し、言語解析することが最も有効な手段でしょう。ですが、まず実際に作品を読んでみて、どこがそうなのかを見極める能力を養うことが先決でしょう。そこで、幾つかの事例を紹介しておきましょう。

A かな書き漢語表現

「やあ、タコノスケ、ぶじだったか」スミス氏のむすめの会話〔第三回22頁〕

「それでも、とてもよくにあうわ。りっぱだわ」スミス氏のむすめの会話〔第三回22頁〕

「さあ、酒場へいこう。こんどはわらわれないよ」嵐風之助の会話〔第二回22頁〕

「それはだめだ。おつれはひどいきずだ。一ヶ月ようじようしなければ」怪人の会話〔第四回24頁〕

「おにさんはここでしばらくようじようしてまたせなさい」怪人の会話〔第四回24頁〕

「シ！ではけっして外へでないうでようじようしてください。いずれのちほど」怪人の会話〔第四回25頁〕

「ハッハッハ。たねをあかせば、ちよつと兄上へんそうしたんですよ」怪人の会話〔第四回24頁〕

「わたくしはどんあものにだって、かおをかえられる。あなたにだってなれる。んそうの天才です」怪人の会話〔第四回24頁〕

の会話〔第四回24頁〕

「さて、これからんそうとござい」モンテ・クリスト伯爵の会話〔第十一回66頁〕

「ちかよらないでっ。あなたはきらいです。そのんそうもやめてっ……私……」メリー女王の会話〔第

十二回67頁〕

「ややや、やつはんそうの天才だ。この島に、はいりこんでるに……」ハムの会話〔第十六回

81頁〕

「ゆだんができないぞ……ここにいる連中だつてルパンのんそうかもしれない」ハムエッグの会話〔第

十六回89頁〕

「だって、そうしきやが、おまえのさかばへいっていつものんでるから……」通行人会話〔第四回25頁〕

「それなら、けっこう。さあおまえのぶじをいわつてかんぱい！」ハムの会話〔第五回26頁〕

「あつ！こりや、おれのみた地図ののこりはんぶんじゃないかっ」ピーターの会話〔第五回27頁〕

「ちえツ、しんだいがあるのゆかの上でねているよ」スチーブの会話〔第六回29頁〕

「朝は六時におき、ごはんの前に馬をならしくんれんして……」スチーブの会話〔第六回30頁〕

「あんしんしろ。こんどはポカッはこないぜ」スチーブの会話〔第六回30頁〕

「君はごうじようだな」スチーブの会話〔第六回31頁〕

「弟はほんとにらんぼうな人です。ゆるして下さいね。タコノスケさん。なにを考えてらっしやる

の？」スミス氏のむすめの会話〔第六回32頁〕

「嵐之助、わしはちつきよを命ぜられた。お前は大庭公のもとへいき父の志をついてくれ。よい

か」嵐之助の父の会話〔第六回32頁〕

「ださなきや、えんりよはしないぜ。二人目の風穴をあけるまでさ！」ハムの手下の会話〔第六回33頁〕

「海賊のかたわれがぶらい漢ビル・コックか？」嵐風之助の会話〔第七回36頁〕

「ピストルを?。へへへん、お前のような**ぶきよう**が?。笑わせらあ」スチーブの会話〔第七回40頁〕
「そうだ。これいじょうめいわくをかけたたくない」嵐風之助の会話〔第八回42頁〕

「おのれエ、**フグ戴天**のハム・エッグ!」嵐風之助の会話〔第八回42頁〕

「**おやぶんめんぼく**くない。**こんど**のけいりやくもだめでさあ。タコのやつめ、まんまとたすかりやがった」ハムの手下の会話〔第八回43頁〕

○宝島の地図をもっているとうたがわれた嵐風之助は、ハム・エッグ一みの手によって、**一けん**家な**か**で**むざん**にもまるやきになろうとしている!。地の文〔第九回47頁〕

「**せつしや**を**ゆうわく**するのはよしてもらいたいでござる」嵐風之助の会話〔第九回49頁〕

「わしの犬はそんな**へいぼん**なやつじゃない……どうも**じつ**に大した犬じゃ!」魔法博士の会話〔第九回50頁〕

「**おきやく**さま、**きつぷ**を**はいけん**いたします」船員の会話〔第九回51頁〕

「まさか外人部隊の中隊長が「モロッコの豹」のふたごの**きようだい**とはしるまいな。」モロッコ軍中隊長ゼブの会話〔第十話56頁〕

「おれは、**こんや**手下どもの**ろうや**を**ばくは**して、ドサクサにまぎれてにげる。それまでの**しんぼう**だ」モロッコの豹の会話〔c〕

「**くんしよう**をやる前にきみの国籍をきこう」モロッコ外人部隊隊長の会話〔モロッコの豹の会話〔第十話60頁〕

「おい、日本人、**こんや**はきさま**ほりよ**のみはりをしろ」モロッコ軍中隊長ゼブの会話〔第十話61頁〕

「**きんむちゆう**だが、ちよつと**しつけい**しよう」嵐風之助の独白〔第十話61頁〕

○私はわかいころ**むじつ**のつみでシャトディフ島の**ろうごく**にいれられました。そして、やっと**脱出**し、モンテ・クリスト島でバク大な宝をみつけたのです。モンテ・クリスト伯の独白〔第十二回67頁〕

「そのとおり、この紙の半分をいただくためにね……しかしその**おれい**にはどんな**キケン**からもあなたをすくいますよ」モンテ・クリスト伯の会話〔第十二回67頁〕

「ハハーン、みたところ、だれかに**さいみんじゆつ**をかけられなさったな」砂漠の占い師の独白〔第十三回68頁〕

「**がってんだ**。船が沖合にでたときやつつけよう」ブラッド船長の会話〔第十三回69頁〕

「ハハ……こんなキリは**しよつちゆう**ですよ。**きけん**はありません……」航海士の会話〔第十三回69頁〕

「ウヒヤー、カ、カ、カ、**カイゾク**」航海士の会話〔第十三回69頁〕

「おお、メリイ姫ではござらぬか。これは**ふしぎ**な……」嵐風之助の会話〔第十三回69頁〕

「ありや、おまえは……。た、たしか、**サバク**で」魔法博士の会話〔第十三回70頁〕

「おのれつ、ハムエッグ。**かいしん**したとみせてまだわるいことをやめないのか」〔第十四回71頁〕

「……そうか、まだ**みんあ**地図に**みれん**があるんだな」嵐風之助の会話〔第十四回72頁〕

「やあ、ハムエッグ。**ひきよう**だ。かくれずにでてこいっ。えい**じやまだ**」嵐風之助の会話〔第十四回72頁〕

「グッ、うしろから**ひきよう**だぞ」嵐風之助の会話〔第十四回72頁〕

「ひきょう、みれんなハムエッグめ。せつしやをうつつもりだったな」嵐風之助の会話〔第十四回 72頁〕

「上の連中はみんなこうさんしたぜ。おとなしくしろい。白ブタ」海賊たちの会話〔第十四回 74頁〕

「おまえたちは、みんなおれの島でドレイにうりとばしてやる」ブラッド海賊船長の会話〔第十四回 74頁〕

「ようし、こうかいするな。つなをグツとひけ……ヒヤア」ハムエッグの会話〔第十四回 74頁〕

「やろうども、船から引きあげろい。分捕物とほりよを船倉へぶちこめやい」ブラッド海賊船長の会話〔第十四回 74頁〕

「ホホッ。とうとう海賊のほりよか。わしの魔法でもこりや助かりそうにないな」魔法博士の会話〔第十四回 74頁〕

「まあ！、なんてあなたは男らしくない弱虫！タコの助さんがあんなにわたしたちのためにふんせんでくださいったのに！」メリイ姫の会話〔第十四回 74頁〕

「お前たちはいちれつにならべ。ばんごう」ハムエッグの会話〔第十五回 75頁〕

「お前たちをひとりひとりしらべるからちずをもってたら出せ。出したらどれいにするのはかんべんしてやるぞ」ハムエッグの会話〔第十五回 75頁〕

「はっはっ、あるかどうか身体けんさしてみろよ」モンテ・クリストフ伯の会話〔第十五回 76頁〕

「せつしやをこうもんにかけるきだな。かけたって曲るものかっ」嵐風之助の会話〔第十五回 78頁〕

「姫！、ボートがよいいしてござる。脱走にぜっこうのチャンスでござる」嵐風之助の会話〔第十五回 82頁〕

「きでんにすまないけど…フウ。姫とちずとをあんぜんな島へはこんで、フウ。すぐまた、たすけにくる」嵐風之助の会話〔第十五回 82頁〕

「タコの助さまのこういをうけますわ」マリー姫の会話〔第十五回 83頁〕

「こうなれば二人のしようぶできめるだけだ！」モンテ・クリストフ伯の会話〔第十五回 83頁〕

「な、なにをなさるんです。それはあんまりむちゃくちゃです！」マリー姫の会話〔第十五回 83頁〕

「やろうども。怪船のしゅうげきだっ。もちばにつけやい！應戦しろ！」ブラッド海賊船長の会話〔第十五回 83頁〕

「うわーいトホ……。おれたちのふねがこっぴみじんだい」ブラッド海賊船長の会話〔第十六回 85頁〕

「……ハッハハハ。ごしんぱいごむようです。マリー姫。タコの助のもっていた地図はかくとうのときすりとおいたのです」モンテ・クリストフ伯の会話〔第十六回 89頁〕

「わしの国の領分へはいったら、わしのまほうはきくんた。そのときはカンタンにとりあげてみせよう」魔法博士の会話〔第十六回 89頁〕

「まだ、まほうはききませんか」魔法博士側近の会話〔第十六回 89頁〕

「ためしてやろう。アイヤーヤー、アイヤーヤー、ハムエッグの鼻チャビンになれ、エイ」魔法博士の会話〔第十六回 89頁〕

「アイヤーヤー、ハムエッグのはなチャビンになれー、エイ」魔法博士の会話〔第十七回 90頁〕

「おはなししましょう。姫はむかしじつにおしゃれで手におえなかったのですよ！そこで国のざいさん

をまもるいみから姫ぎみを犬にかえて国をおいだした悪人がおりました」魔法博士の会話〔第十七回 95頁〕

「博士、そなたのしんせつはわすれませんか」ハレムの王女フラリ姫の会話〔第十七回 95頁〕
「あとのちずの半分もうらない師のちからですぐにありかがわかるでしょう。さればかたんに手にいれてみせようワハハハ」魔法博士の会話〔第十七回 95頁〕

「しんようできないでござるッ。いくら、キリシタンバテレンでも……」嵐風之助の会話〔第十八回 97頁〕

「むかつてくるやつはえんりよはいらんど。かたつぱしからのばせ」魔法博士の会話〔第二十回 106頁〕

「こじきのくせにわたしにはむかうとはふらちもの……」フラリ姫の会話〔第二十回 106頁〕

「わすれたりや、フラリ姫っ。十年むかしきさまがぜいたくさんまいにくらして国をかえりみなかったとき、きさまをまほうのくすりでいぬにしたために城をおわれた大臣だ、ウハッハハ」こじき大王の会話〔第二十回 106頁〕

「うんめいとはしりながらはかないともだちでござった」嵐風之助の会話〔第二十一回 115頁〕

「きさまとはこれがさいごのけつとうだ。やつぎきにしてもあきたらねえやつだが、ちずをよこしたらたすけてやるぜ」ハムエッグの会話〔第二十一回 115頁〕

「まった、そのくもはかいぶつだ。あぶないからいくなッ」嵐風之助の会話〔第二十一回 115頁〕

「あの男もついにぎせいになってしまった。あく人とはいえ、きのどくなやつだった」嵐風之助の会話〔第二十一回 116頁〕

B 漢字書き漢語表現

「フン、なんたる非道徳きわまる!!」

「大陸横断鉄道！バンザイ！米大陸をワシントンからカリフォルニアへよこぎつて沃野を疾走す

る蒸気機関車！これがおれの多年の夢だった。おれは全財産をこの大事業にささげる。これこそアメリカ国民の生きがいだ。そしておれの一生の一ばんの思い 出草だ……」ビル・コックの会話

〔第七回 38頁〕

「ときに一千八百七十三年五月十四日、西部開拓史にその名をうたわれた怪傑ビル・ヒコックも

あわれ、兇弾にたおれたのであった」ハムの手下の会話〔第八回 44頁〕

「やい、船客はどこにいる。いわないと通風孔をあけるぞ！」ハムエッグの会話

「むりだよ。一色凸版のページでまっかになんかなるか」海賊の会話〔第十六回 85頁〕

C 漢字かな混用漢語表現

「そのコシヨウとトウガラシをまぜたこなを香ろにいれる」魔法博士の会話〔第九回 51頁〕

「オランダの書物で、ふたごの一人がしぬと一人も精神てきなショックでしぬことがあるというのをよんだことがある」嵐風之助の会話〔第十一回 65頁〕

「ややッ、また紙があつまたぞ。きつ怪千ばんな……」嵐風之助の会話〔第十一回 65頁〕

○私はわかいころむじつのつみでシャツデーフ島のろうごくにいれられました。そして、やっと脱出

し、モンテ・クリスト島で**バク**大な宝をみつけたのです。モンテ・クリストフ伯の独白〔第十二回 67頁〕

「**急行**下**バク**ゲキってやつだぞつ。えーい」船員の会話〔第十四回 71頁〕

「英国紳士道にならつて**決**とうといこう」船客紳士の会話〔第十四回 71頁〕

「ハムは十五分ほど**休**ケイだ。おれが相手をしてやる。こいつ」ブラッド海賊船長の会話〔第十四回 72頁〕

「**こん夜**にかぎってみはりもないとは。たしかにこりやあ、あやしい」嵐風之助の会話〔第十五回 81頁〕

「**伯**しやくさまもごぶじで、なりよりのことで、へへへ」ルイジ・バンパの会話〔第十六回 88頁〕

「**伯**しやくさまが、ハトで地図とおてがみを、わっしの所へとどけなすつたので、さっそく船をひきつれてやってきたのでさ」ルイジ・バンパの会話〔第十六回 88頁〕

D 漢字かな両用表記のことば

①「あなたの犬かどうかしらんが、とにかく、へんな二人づれの**こぞう**がつれているのをみたよ。白くて耳がちぢれて」客船の客の会話〔第九回 50頁〕

「**子僧**きさま、ナポレオンの宝 島の地図をもっているな…いやおれはさきおまえのうちのまえをとおりかかってすつかりきいてしまったんだ」ビル・ヒコックの会話〔第七回 36頁〕

「はははっ、**子僧**うつつもりかね。おもしろい、うってみろ、あたったら一セントやるぞ」ビル・ヒコ

ックの会話〔第七回 36頁〕

それにつけてもにくらしいのはあの**子ぞう**…どうだ、こうして…かたずけては…」モロッコの豹の会話〔第十回 60頁〕

「姫君ちとおいたがすぎはしませんか。あんな**日本子ぞう**、首をうちおとしてしまえばよいのだ」魔法博士の会話〔第十八回 98頁〕

「**日本子ぞう**、いたな…」ハムエッグの会話〔第二十一回 115頁〕

「だんな、いがいな**小僧**にありましたぜ。ほら、れいのタコの助とスチーブのやつでさあ！。だんながアメリカでにがい目にあつた」浮浪者風の男の会話〔第十二回 68頁〕

「**小僧**はきつと宝島をさがしているんだ。たしかに地図をもっているはずだ。ブラッド船長たのむぜ」ハムの会話〔第十二回 69頁〕

「うわーい。ブラッドオ、**日本小僧**をたのむよう」ハムエッグの会話〔第十四回 71頁〕

「おい！。ハムエッグ。おれはその**小僧**をいじめるなといっていたはずだな」「おれは**小僧**に話があるんだ」ブラッド海賊船長の会話〔第十五回 76頁〕

「へっへっ。**こぞう**。グウとでもいつてみる」ハムエッグの会話〔第十四回 74頁〕

「だが、なぜ、**こぞう**に**ちぢ**なんかもたせてにがすんで」海賊の会話〔第十五回 81頁〕

「**こぞう**が**ちぢ**ずをもつて島をでたということはルパンの耳にすぐにはいるだろう。そうするとやつはにせともしらずおいかけける」ハムエッグの会話〔第十五回 82頁〕

「でかした。**こぞう**！。いいうでだった」ブラッド海賊船長の会話〔第十六回 87頁〕

